

1. 評価結果概要表

平成 21 年 4 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700732		
法人名	医療法人社団 柏木内科医院		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	〒089-0602 中川郡幕別町旭町24-76 (電話) 0155-54-6696		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年4月16日

【情報提供票より】 (21年1月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 3 月 23 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	12 人 常勤 12人, 非常勤 0 人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円
その他の経費(月額)	5,000円
敷金	有()円 (無)
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 有りの場合償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円
	夕食 円 おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円

(4) 利用者の概要 (1 月 23 日現在)

利用者人数	17 名 男性 0 名 女性 17 名
要介護1	4 名 要介護2 3 名
要介護3	5 名 要介護4 4 名
要介護5	1 名 要支援2 名
年齢	平均 86 歳 71 歳 102 歳

(5) 協力医療機関

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、国道38号線沿い一角奥まった閑静な住宅街にあり、見渡せば車の頻繁な往来が活気を見せている。事業所は、地域に根ざした介護を理念に掲げ、職員は礼儀正しく、利用者の気持ちに引き合い、寄り添い、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援している。事業所の敷地内に広い畑があり、地域の人と共に畑作や収穫を楽しんでいる。共用部分は程よい広さで明るく、利用者は、ゆったり笑顔の耐えない日々を過ごしている。個室も明るくミニ洗面も備え、使い慣れた家具など持ち込まれている。母体は、医療法人であるため重度化、看取りについても、医療連携が密であり、利用者が安心して暮せる事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の課題である運営推進会議は設置され、会議には利用者の状況や自己評価、外部評価など報告して意見交換し、助言を得ている。同業者との交流については十勝グループホーム協議会に加入しており、今後他の事業所との交流を図るよう検討中である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者中心に各ユニットごとで話し合い、結果を全職員で話し合っ作成している。作成した自己評価は運営推進会議に報告して助言を得、改善事項があれば職員会議で検討して改善に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回行われ、メンバーは、町内会代表、行政介護職員、家族代表、行政職員OB、法人代表、事業所代表であり、会議には利用者の状況、自己評価や外部評価など報告し、情報交換して助言を得ている。会議結果は記録に残し、職員会議で検討して改善するなどサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪時には、利用者の健康状態、近況、金銭管理報告をし、苦情、相談など、話しやすい雰囲気をつくり丁寧に聞き対応している。遠方の方には、あさひだよりを2~3ヶ月に一度発行し、写真なども同封して近況を、お知らせしている。外部にも苦情相談窓口があることを明記して知らせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入して地域の運動会などの行事に参加しており、また事業所駐車場が非常時に地域の避難場所にもなっている。事業所内の除雪、畑作、フリマーケット、焼肉にも参加していただき、地域との交流を積極的に図っている。

協力医療機関名	(医) 柏木内科医院、(医) 木下歯科医院、啓和会黒沢病院
---------	-------------------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざしたケアサービス計画に基づき、家庭的な環境の下で、安心と尊厳のある生活ができ、能力を可能な限り引き出すという事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすい場所に掲示し、管理者と職員は朝礼で復唱し共有し、サービスの実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、運動会などの行事に参加し、事業所主催のフリーマーケットへの参加呼びかけや、畑の収穫の際にも声かけをして、野菜のおすそ分けをしている。災害時には事業所の駐車場が地域の避難場所となり、自治会の「子供110番の家」の役目も担うなど、地域と双方向的な交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価はユニットごとに全職員で話し合い作成している。作成した自己評価は運営推進会議に報告し助言を得て、課題項目については職員会議で検討し改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回行なわれ、会議には利用者の状況、自己評価や外部評価を報告し、情報交換して助言を得ている。会議結果は記録し、職員会議で検討して改善するなどサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は介護認定審査会の委員として地域ケア会議にも参加し相談、指導に携っている。市や町の職員の異動あるごとに事業所に訪問を受ける。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「あさひだより」を2～3ヶ月に一度発刊し、事業所の様子を報告している。家族来訪時にも、健康状態、近況、金銭管理報告を行ない、遠方の方で来訪が難しい家族には、日頃の暮らしぶりなどを手紙に書き、写真を添えて送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、利用者の健康状態、近況、金銭管理報告をし、苦情や相談なども話しやすい雰囲気をつくり丁寧に聴き対応している。重要事項説明書には外部の苦情相談窓口を明記し、苦情や相談の結果は職員会議や運営推進会議に報告し、助言を得て改善に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず異動、退職が発生した場合には、利用者に馴染みの職員が対応し、ダメージが緩和されるように配慮している。離職した元職員も、結婚して子供を連れて事業所を来訪する等、利用者には気遣っている。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	運営者は費用を負担し、外部研修会、講習会など勤務体制の調整を図り、参加するよう勧めている。研修結果は持ち帰り、職員全体で共有し、いつでも閲覧できるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	十勝グループホーム協議会の連絡会に参加し意見交換など交流を図り日々のケアに繋げている。	○	同業者への見学や相互研修会の交流の検討を示しているため、実現されることに期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用申し込み者は、最初に運営者（医師）と面談して頂き、管理者とは何回となく利用者・家族に来院して頂く事で馴染みとなり、サービスを開始している。急な場合は関係者に付き添って頂き、不安を与えないように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は一方的に介護するのではなく協働で無理強いせず、自分の洗濯物をたたむなど、出来る事、得意な事を見出し、畑作業などについては数多く教わることもあり、共に支え合いながら信頼を築いている。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室に洗濯物を持って行ったときなど、声掛けし何気ない会話から思いを察したり、表情などから真意をくみ取り把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者を中心に利用者一人ひとりの状況を把握し、職員全員でモニタリングやカンファレンスを行ない課題を明らかにし、家族の意見や要望を参考に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを行ない見直している。利用者の体調の変化や職員の気づき、利用者や家族の要望などに応じて臨機応変に介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は、基本的には家族が行っているが、状況により事業所でも支援している。母体が医療法人であり、医療連携体制を活かし、受診、入院を回避し、家族の負担軽減に努めている。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、利用者や家族が希望するかかりつけ医となっており、協力医療機関との関係を密にし、歯科医師、耳鼻科医の往診が受けれるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合と終期末の方針は、早い段階で、利用者や家族と話し合い、主治医と職員は、意向を共有している。急変時はすぐ対応できるよう医療機関とも連携を密にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者と共に歩むことを基本とし、言葉かけ、着替え、トイレ、オムツ交換時本人を傷つけることなくさりげない支援に配慮している。記録なども事務所で対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとり一人の意向を尊重し、無理強いせず、本人のペースに合わせ、見守るよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に、食事の準備を行なっている。利用者の好みや、苦手なもの、体調などに合わせて、きざみ食、ミキサー食など献立を工夫し、収穫した野菜も食卓に上り、食事を楽しんでいる。後片付けも職員と一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を設定しているが、本人の体調やタイミングを考慮し無理強いせず、入浴困難な場合は清拭やシャワー浴で清潔保持を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個室で鉢植えを育てたり、ビデオで好きな演歌などを聴いている。食事の片付け、洗濯たたみなど無理強いせず本人のペースで張り合いを持って生活をして頂くよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に合わせて散歩や買物、菜園、収穫、イチゴ狩、町内会運動会、夏祭り、墓参り、菊祭りなど必要により介護タクシーを利用して外出支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者への鍵をかけられる心理的不安、閉塞感、家族や地域の人々にもたらすデメリットを運営者、職員が認識しており、防犯上夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けながら年2回消防訓練が行なわれている。防災マニュアルが整備され、避難訓練には地域住民も参加している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分量、排泄などを記録し個々の体調に合わせ、栄養バランスを考え、お粥、副菜はキザミ、ミキサー、嚥下補助剤などで支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、行事の写真や作品が飾られ、鉢植えなども置かれこころ和ませている。共用部分には雛飾り、こいのぼり、クリスマスツリーなど季節ごとに飾り付けをしており、季節感や生活感を味わいながら、ゆったり過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には、ミニ洗面所が設置されている。利用者の使い慣れた家具、仏壇が持ち込まれ、家族の写真や観賞用の鉢植えなど心安らぐ品も備え、思いおもいに居心地良く過ごせる工夫をしている。		

※ は、重点項目。